

カガクで
ネガイを
カナエル会社

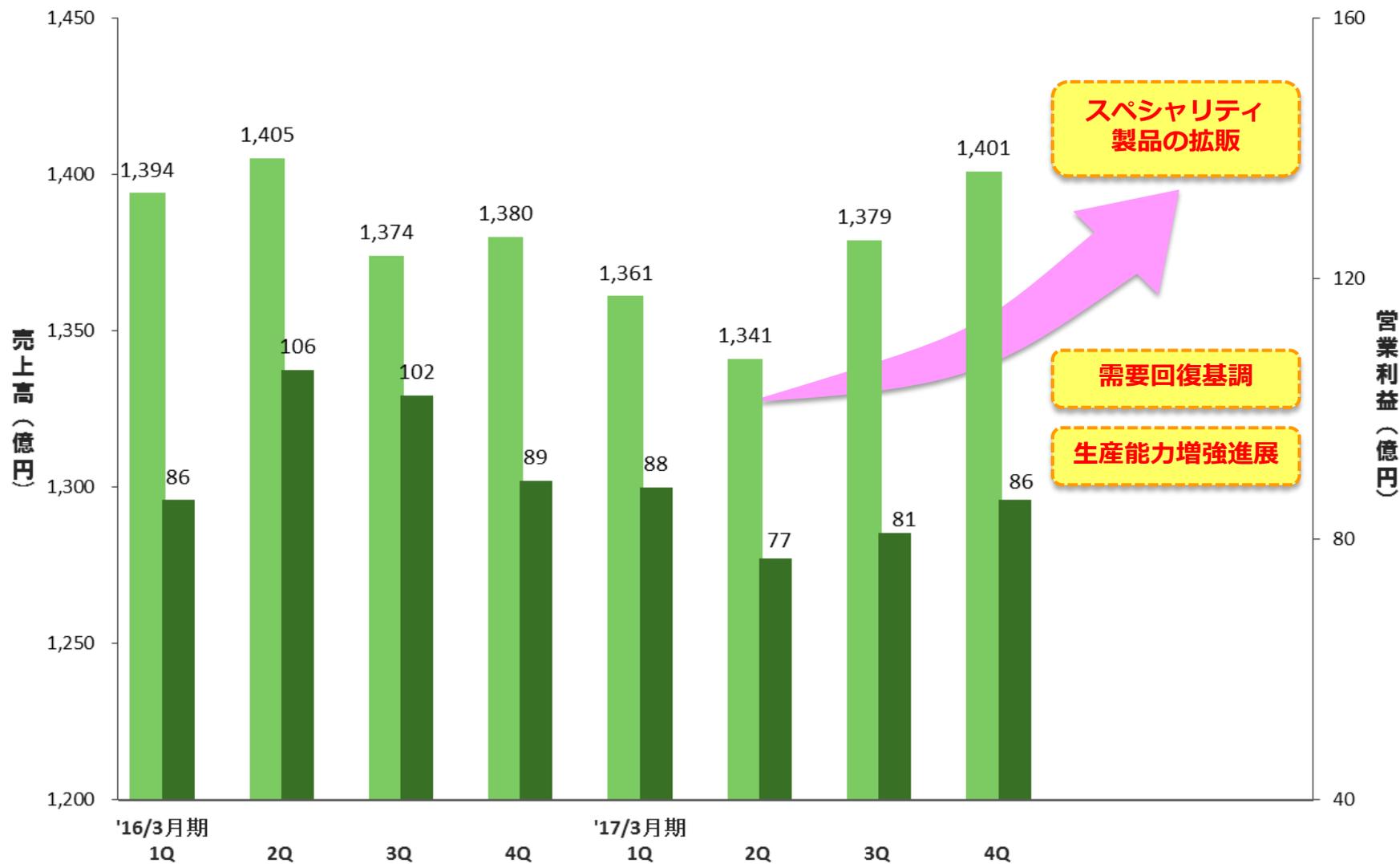
KANEKA

2017年3月期 決算概要

株式会社 **カネカ**

(単位：億円)

	2016年3月期	2017年3月期	増減	
			金額	%
売上高	5,552	5,482	△ 70	△1.3%
営業利益	382	332	△ 51	△13.2%
経常利益	330	274	△ 56	△17.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	210	205	△ 5	△2.4%



(単位：百万円)

	売上高				営業利益			
	2016年3月期	2017年3月期	増減		2016年3月期	2017年3月期	増減	
			金額	%			金額	%
化成品	103,430	96,631	△6,798	△6.6%	5,568	7,428	1,860	33.4%
機能性樹脂	98,385	110,664	12,279	12.5%	15,117	14,825	△292	△1.9%
発泡樹脂製品	65,148	64,257	△890	△1.4%	6,310	5,790	△519	△8.2%
食品	144,960	147,312	2,352	1.6%	3,748	4,515	766	20.4%
ライフサイエンス	58,922	55,818	△3,103	△5.3%	11,723	11,662	△61	△0.5%
エレクトロニクス	39,123	35,551	△3,571	△9.1%	19	△1,182	△1,201	-
合成繊維、その他	45,257	37,986	△7,271	△16.1%	15,658	10,815	△4,842	△30.9%
調整額	-	-	-	-	△19,926	△20,689	△763	-
計	555,227	548,222	△7,004	△1.3%	38,220	33,164	△5,055	△13.2%

機 能 性 樹 脂

売上高／1,107億円（対前期12.5%増）

営業利益／148億円（同1.9%減）

- 新規用途開発とグローバルな能力増強により拡販が進み海外売上高は拡大
- 円高と原料価格高騰の影響により営業利益は前期比微減
- モディファイヤー・変成シリコンポリマーともに海外市場で販売が拡大し、供給能力不足の状況
- モディファイヤーのマレーシア新系列が商業運転を開始し、変成シリコンポリマーもマレーシア生産設備の新設（7月稼働予定）に続き、ベルギーでの能力増強（2018年末稼働）を決定
- グローバルに拡大する需要に応える体制を整え、事業拡大を図る

設備能力増強計画

	拠点	稼働年月	生産能力
モディファイヤー	マレーシア	2017年3月	30→50千t/年
変成シリコン ポリマー	マレーシア	2017年7月(予定)	9千t/年(新設)
	ベルギー	2018年末(予定)	20→30千t/年

ライフサイエンス

売上高 / 558億円 (対前期5.3%減)

営業利益 / 117億円 (前期並み)

- 医療機器の償還価格改定の影響を、海外市場での他社との共同事業の拡大、機能性食品素材（還元型コエンザイムQ10）の米国を中心とした拡販、医薬品の拡販で吸収し、営業利益は前期並み
- 医薬品は、国内での生産能力増強に続き、バイオリジクス分野の旺盛な需要に応えるため、カネカユーロジェンテックの能力増強を決定
- オープンイノベーションや他社との提携、米国R & D拠点の活用により研究開発を強化し、事業領域の拡大を進める

設備能力増強計画

医薬品API事業

大阪合成有機化学研究所の生産能力を5割増強（2018年稼働予定）

バイオリジクス事業

カネカユーロジェンテックの生産能力を4倍に拡大（2020年稼働予定）

他社との提携

医療機器事業

海外市場向けにカテーテルのOEM供給体制を拡大
海外を中心にM & Aを検討中

R&Dの強化

カネカUSイノベーションセンター

2016年9月に米国シリコンバレーに研究・事業開発拠点を設置

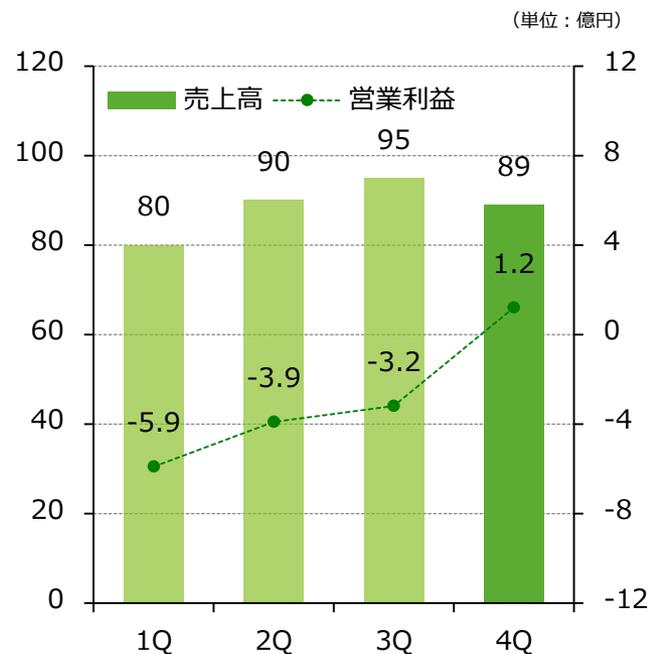
エレクトロニクス

売上高/356億円 (対前期9.1%減)

営業損失/12億円

- 電子材料の低調により減収減益。4Qは営業黒字を回復
- 電子材料は4Q以降スマートフォンなどエレクトロニクス市場全体が回復傾向となるなか、超耐熱ポリイミドフィルムの高機能品の販売が増加、能力律速により一部製品の供給が遅れ、円高も影響し減収減益
- 4Qは市場の技術開発ニーズに応える新規用途での販売が増加し収益が改善
- 太陽電池は新製品の性能向上と美観が評価され、大手ハウスメーカー向けの販売が増加するとともに、事業構造改革が進み採算が改善

四半期業績推移



合成繊維、その他

売上高 / 380億円 (対前期16.1%減)

営業利益 / 108億円 (同30.9%減)

- 円高とアジア市場の需要回復の遅れの影響を強く受けた結果、減収減益
- 足元のアジア市場は回復基調。高付加価値品の拡販や新製品の継続的投入とアジア・アフリカ市場でのマーケティング強化により、着実な販売拡大を実現する
- マレーシア拠点のコスト競争力を活かし、収益拡大を図る

拡販強化策

ガーナ拠点を活用した東・南アフリカ市場への販売促進の強化	顧客ニーズを捉えた新商品の開発と投入
アフリカでの商品開発機能強化	美容師への教育・技術支援による需要の喚起

(単位：億円)

	2017年3月期 実績	2018年3月期 予想	増減	
			金額	%
売上高	5,482	6,100	618	11.3%
営業利益	332	430	98	29.7%
経常利益	274	390	116	42.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	205	230	25	12.3%

【2018年3月期 前提条件】 為替レート：110円/米ドル、120円/ユーロ 国産ナフサ価格：42,000円/KL

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(単位：億円)

	売上高				営業利益			
	2017年3月期 実績	2018年3月期 予想	増減		2017年3月期 実績	2018年3月期 予想	増減	
			金額	(%)			金額	(%)
Material SU	2,073	2,270	197	(9.5%)	223	235	12	(5.6%)
Quality of Life SU	1,368	1,560	192	(14.0%)	150	190	40	(26.3%)
Health Care SU	451	500	49	(10.8%)	109	130	21	(19.3%)
Nutrition SU	1,580	1,740	160	(10.1%)	53	80	27	(51.5%)
その他	9	30	21	(217.5%)	4	5	1	—
調整額	—	—	—	—	△ 207	△ 210	△ 3	—
計	5,482	6,100	618	(11.3%)	332	430	98	(29.7%)

※ S U : Solutions Unit

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

カガクで
ネガイを
カナエル会社
KANEKA

[免責条項]

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。